



まいど！ざいむ局です！

# 関西元気企業

## ～時代の風を掴む！～

今回ご紹介する企業は、株式会社ビーエスシー・インターナショナル（以下、「BSC」という）です。滋賀県と言えば「琵琶湖」。その自然豊かな琵琶湖 比良山のふもと、水と緑に溢れる湖西・蓬莱浜でウォータースポーツを通して子供たちに伝えようとする社長の思いや時代の風を掴むために行ってきた社長の大胆な行動についてお話を伺ってきました。

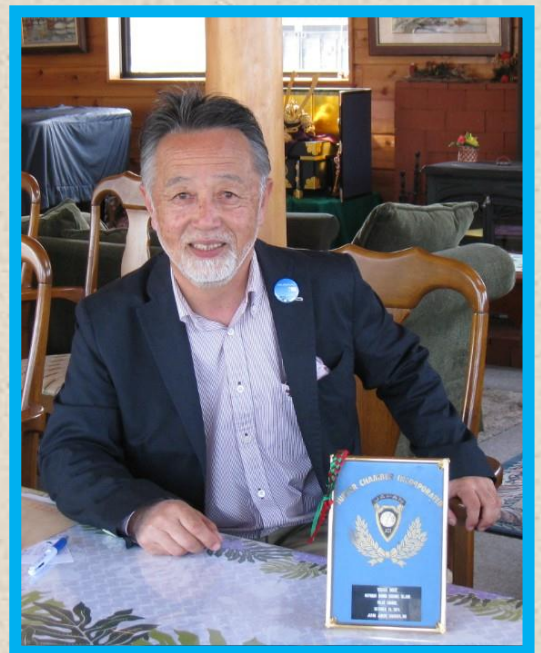
### 企業情報

名称	株式会社ビーエスシー・インターナショナル		
所在地	滋賀県大津市南船路 4-1		
設立	昭和 48 年		
代表者	井上 良夫		
従業員	6 名	資本金	20 百万円
H P	<a href="http://www.bsc-int.co.jp/">http://www.bsc-int.co.jp/</a>		

### ●開設のきっかけは。

幼少期から琵琶湖の近くで育ち、冒険家である堀江謙一氏が小型ヨットで太平洋を横断したことに憧れを抱き、「ヨットってカッコいいかも!？」との思いから、大学でヨット部に入部しました。そして、当時のヨット部メンバーたちとアルバイト感覚でヨットを教え始めたことが、現在のヨットスクール開設のきっかけとなりました。

大学を卒業し、1973年にびわ湖セーリングセンター（現在 BSC ウォータースポーツセンター）を開校しました。そのときに知り合った英国人インストラクターの影響を受け、イギリスの冒険学校に飛び込みで留学しました。そのときは語学力もなかったので苦労しましたが、帰国後「もっと本格的にセーリングを学びたい」「自然豊かな琵琶湖でしかできない非日常体験を提供したい」との思いから再度英国に留学し、1977年、当時日本人としては初となる「英国王立ヨット協会公認インストラクター資格」を取得しました。



(株)ビーエスシー・インターナショナル  
代表取締役 井上 良夫氏

### ●「自然豊かな琵琶湖でしかできない非日常体験」とは。

BSC では、琵琶湖でしかできない非日常体験を「びわ湖自然体験学習」と題して、数多くのプランを企画・提供しています。そのプログラムの一例として、夏休み中の1～2週間程度を利用した小学校高学年対象のスクールキャンプがあります（「アジア国際子供サマーキャンプ」「びわ湖冒険の旅」）。琵琶湖上でのウォータースポーツとしてヨット・カヤック・ウィンドサーフィンなどがあり、陸上プログラムではドラム缶風呂やバーベキュー、キャンプファイヤー、比叡山延暦寺での座禅・精



進料理・肝試しなどがあります。自然の息吹を感じながら日本一大きな琵琶湖を体全体で感じることができます。

#### <第9回アジア国際子供サマーキャンプの様相>



参加対象は小学校高学年としておりますが、中国や韓国からの参加者も募集しているため自然体験だけではなく青少年国際交流も体験することができます。また、小学生のときにキャンプに参加した方は、中学生や高校生に進学した後もサブリーダー（小学生参加者のまとめ役）として参加することにより、積極性やリーダーシップも醸成することができます。

子どもたちからは「最初カヌーやカヤックに乗るのは怖かったけど、勇気を振り絞り乗ることができたのでとても楽しかった」、「BSC で学んだチャレンジ精神であらゆることに挑戦したいと思っています。そして絶対に自分の夢を叶えます」といった声をもらっています。

また、スクールやキャンプの運営に当たっては、ボラバイトや大学生インターンシップ生を運営スタッフとして募集していますが、インターンシップ生にとっては自己の強いところや弱いところを知るなど自己成長につながりますし、参加する小学生やサブリーダーの中学生・高校生にとっても年の近いインターンシップ生の存在はよい刺激となっているようです。インターンシップ生参加者の中には韓国や中国からの留学生もいます。韓国や中国との間で文化交流を続けてきたからこそ、交流の輪を広げることができたのだと思っています。

#### ●BSC を運営するうえで社長が大切にしていることは何でしょうか。

我々が事業活動を行うに当たって重要と考えたことは「時代の風を掴むこと」です。ヨットは風を受けて帆走するスポーツですが、その風を掴むために風速や風向を肌で感じつつ、今後の風のコンディションを予測しながら針路をとる必要があります。事業活動についても同様で、我々に求められているサービスや市場ニーズは、時代背景や社会情勢に応じて日々刻々と変化していることから正に「時代の風」と言えます。この「時代の風」を的確に掴んだうえでサービスの提供やプログラムを企画することが重要と考えています。

「時代の風」を掴むうえで大事にしていることは「日本で初めてのサービスを提供すること」です。



人の真似は決してしません。英国王立ヨット協会公認インストラクター資格を取得したのも、当時日本では誰も取得者がいなかったからです（今は何人かいるかも知れませんが、少なくとも1977年当時の日本に取得者はいなかったと認識しています）。

もう1つは、「まずはチャレンジすること」です。何事にも自分から積極的に風を掴みに行くこと。たとえ一歩先が“無風”であっても、十歩先には“追い風”が吹いていることもあります。先んじて風を掴まなければ他艇に風を掴まれることもあります。理由や理屈を頼りに行動する選択肢もありますが、動かなかつたことで後悔することもあると思います。あれこれ考える前にまずは動き出してみよう。「なんとなく」「とりあえず」といった理屈抜きの感性だけでも、私の中では立派な理由になります。まずはやってみる、まずはチャレンジしてみることが、“日本初”を創出するものと考えています。



「ココクール・マザーセレクション2012(※)」選定  
『サンライズカヤック&メロンパン作り』

※滋賀県ならではの自然や素材を活かした滋賀らしい商品やサービスを選定する、滋賀県主催のコンクール。2012年度では応募総数142件のうちBSCを含めて10件が選定された。

### ●これまでの事業展開の中で、社長の立志伝（成功談）を1つ挙げるとすれば何でしょうか。

先ほど韓国や中国との文化交流の話がありましたが、1つの例として琵琶湖と韓国・釜山との間で毎年相互開催している「日韓親善ヨットレース」があります。このヨットレースは1982年が第1回なのですが、最初のきっかけは韓国への飛び込み営業でした。

1981年にソウルオリンピック開催（1988年）が決定した際、ヨットが競技種目に含まれておりました。当時韓国での競技人口は少ないと思っていましたので、「必ずヨット競技の需要がある！韓国に風が吹く！」と私の第六感が働き、すぐさまソウルに赴いて「釜山で競技しているのをテレビで見た」との情報だけを頼りに釜山市のテレビ局社長と面談し、1982年の「第1回日韓親善ヨットレース」の開催にこぎつけました。当時韓国に初めて赴いた際は、特に人脈などの当てもなく、掘りどころと言えば情報だけで、自分の感性のみを頼りに飛び込んだのですが、うまく“韓国の風”を掴むことができました。



第25回日韓親善ヨットレース（2007年 釜山にて）

た御礼状は、当スクールの宝物として大切に保管しています。スクールで指導していた当時はまさか大統領になるなんて想像もしていませんでしたので、韓国でうまく掴んだと思っていた“風”は実はとてつもなく“大きな風”だったのです（笑）。

また、この日韓親善ヨットレースをきっかけに盧武鉉元大統領との出会いがありました。当時の彼は、ヨットを趣味とする政界入りする前の弁護士で、釜山市の社会人ヨットクラブ（10名）の会長を務めておりました。その後、親交を深めるにつれて、1983年に初めての訪日でヨットを学ぶためにBSCに来られました。今でも当時のスクール講習の申込用紙や帰国後に届いた



これまで日韓交流を皮切りに、アジアとの交流を深めてきましたが、アジアだけにとどまるつもりはありません。最近では世間の目がアジアに向き出したので、逆に当社ではアメリカ・ヨーロッパ・オーストラリアとの交流を深めていくチャンスだと思っています。

## ●今後の「夢」について

BSC に参加する子供たちにはいつも「冒険ある人生を送ろう」「(目の前にインタビュアーの公務員がいるのに言うのも悪いですが) 公務員にはなるな。起業家を目指そう」と教えています。子どもたちは、日々刻々と変わっていく社会環境、都市生活、核家族の中で生き抜かなければなりません。これからの未来を担う子供たちには、この先色んなことへの挑戦、達成、失敗など様々な出来事が待ち受けていますが、ときに大きな壁にぶち当たったり、諦める方が楽なこともあるでしょう。その来るべき大きな壁を乗り越えるために、BSC に来る子供たちには自然豊かな琵琶湖畔で非日常体験を経験させ、勇気を持って挑戦し、それを乗り越える術を身に付けてもらいたいと思っています。「自然体験学習」や「サマーキャンプ」は見方によって厳しい内容に映るかも知れませんが、苦勞を乗り越えた先にある達成感によって人間は成長するというのを、私は信じて止みません。



入口に掲げられた BSC のフラッグには、今日も力強く“時代の風”がたなびいています。これから先何隻ものヨットが帆を広げる時を楽しみにしています。

私は常に新しい多くの体験に勇気を持って挑戦し、たくさんの友達と出会い、コミュニケーションがとれる、そのような場を提供したいと思っています。そして、子供たちがこれから“社会”という大海原に出航(Outward Bound)するに当たり BSC での体験が子どもたちの“追い風”になれば、これほど嬉しいことはありません。

今までも、そしてこれからも「時代の風」を掴み、常に新しいことに挑戦する姿勢を子どもたちに示しながら、子どもたちを見守り、応援し続けたいと思います。

### <取材後記>

人との交わりが希薄になり、集団生活が敬遠されがちな時代にあってサマーキャンプなどのプログラムへの応募者は絶えないと社長は言う。当社は常に「時代の風」を追い続けて開設 40 周年を迎えた。これは、社長の新しいことに挑戦する姿勢を忘れない好奇心旺盛な信念と行動力の賜物であることは言うまでもない。イギリス留学に始まり韓国への飛び込み営業など「風」と感じたら直ちに行動を移すといった一見無謀に見えるこれらの行動が、時代の風を的確に掴んできた証とも言えるだろう。

社長は子供たちに「公務員にはなるな。起業家を目指そう」と教える。趣旨は「守りに走るな。挑戦していこう」という姿勢や気概を促すものであるが、我々公務員はやはり守りのイメージが強いのだろう。今回の取材を通じて、社長の言葉を我々公務員に一石を投じる言葉として受け止め、“公務員=守り”のイメージを払拭し、いつの日か社長に「起業家もいいけど、公務員もいいゾ」と言ってもらえるよう、これから先覚悟を決めて“挑戦”していきたい。

掲載している情報は、平成 25 年 5 月時点のものです。

掲載している写真の一部は、同社の了解をいただいたうえで同社ホームページ内の写真を転用しております。